



鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/school/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

くろしよ 鉄小伝統の「全校稲刈り」

副校長 本間 秀司

先日、1、2年生は、朝の集合時は小雨の降る中でしたが金沢動物園遠足に行きました。当初は雨プログラムでスタートしましたが、1、2年生が順番に動物園の飼育員の方からの説明を聞き、屋内施設で軽食を食べ終えた頃には雨が上がっていました。その後、グループで園内を散策する活動は傘を差すこともなく回ることができました。昼食は、芝生広場でシートを広げ、グループで食べることもできました。1、2年生はお互いに交流を深め、とても充実した1日となりました。

11月以降、他学年でも校外学習、5年生はスポーツ交流会、全校では収穫祭を実施いたします。子どもたちは天気にも恵まれ、行事を行うことができるのを心待ちにしています。

さて、10月は、鉄小の栽培活動の中で大きな行事であります稲作の稲刈りと脱穀を行いました。坂田清一様、金子茂文様のご指導により、10月3日に5年生が田んぼの一部の稲刈りと稲を掛けるための「稲架(はさ)立て」を行い、4日は全校児童による「稲刈り」を行いました。当日は多くの保護者ボランティアの方々がお手伝いに来てくださいました。児童は学年に合った大きさの鎌を取り、怪我をしないように気を付けながらご指導していただいた通りに一束ずつ丁寧に刈り取りました。皆様のご協力をおもちゃして無事に稲刈りを終えることができましたことを職員一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、12日に5年生は、コンバインによる脱穀を行い、別の日に3年生は足踏み脱穀機、千歯扱きを使用し、1、2年生は割り箸や牛乳パックを使い、稲穂から一粒ずつ粳をとる作業を行いました。さらに、11月19日の収穫祭では、5年生が稲作活動の様子について全校に向けて発表いたします。その日の給食では、育てたうるち米の『はるみ』を全校児童が味わいます。全校で大切に栽培したお米は絶対においしいに違いありません。このような子どもたちの学びの姿を見ると稲作を中心とした学習活動が豊かな「実り」となっていることがよくわかります。鉄小がずっと前から継続している栽培活動は、子どもたちや地域に根付いている貴重な体験です。ボランティアの保護者の方々の中には、毎年ご協力いただいていた慣れた手つきで作業のお手伝いをしてくださったり、ご自分も鉄小の通い、稲作活動を行った経験があり、保護者となって稲刈りをお手伝いに来てくださったりするなど、伝統として脈々と続けられていることを実感いたしました。

これからも学校、保護者、地域が一体となって鉄小伝統の栽培活動をはじめとした全教育活動を進めていくことができるようご支援の程、よろしく願いいたします。

いよいよ明日(10月29日)は、『鉄スポーツフェスティバル』です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参観は各家庭につき、2名に限っての開催となります。児童はもちろん参観者の皆様も距離を保つことなど多くの制約がありますが、短い練習期間の中、どの学年も一生懸命取り組みましたので、精一杯頑張っている児童の演技や走る姿をご覧ください。